

第2学年生活科学学習指導案

日 時 平成15年6月6日(金) 5校時

学 級 2年1組

児童数 男子18名 女子17名 計35名

授業者 千葉正司

1 単元名 「なかよくなりたいね」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は学習指導要領の内容(1)「自分たちの生活は地域の人々や様々な場所と関わっていることが分かり、人々と適切に接することや安全に生活することが出来るようになる。」を受けて設定した。昨年度、1年生では「すきです わたしの がっこう」という学年テーマで生活科の学習に取り組み、学校たんけんやペア学習(ゆうびんやさん)で先生方や異学年の児童と交流を持った。上学年と下学年の子が教え合ったりする中で、生き生きと活動する姿が見られると同時にたくさんの気づきがあった。本年度、2年生は「すきです わたしの町 いわやどう」という学年テーマで取り組む。人との関わりの楽しさを身を持って知っている子どもたちが、今度は学校を飛び出し、学校の周辺の商店街に繰り出して地域の人々に関わっていかうとする本単元は、児童が夢中になって取り組むのではないかと考える。

(2) 児童について

ふだん生活している場所だけに「岩谷堂のことなら何でも知ってるよ。」と目を輝かせたくさんのお話をしてくれる子どもたちである。しかし、スーパーマーケットですべての用事を済ませている家庭が多く、通学途中の商店で何を売っているのか、街角にあるモニュメントの謂れについては、ほとんどの子が知らない。「たんけん」という言葉を聞いただけでわくわくする児童である。動機付けがしっかりしていれば何度でもたんけんに出かけて行くのではないかと考える。

(3) 活動を進めるにあたって

まず、つかむ段階では、岩谷堂商店街に学年全体でラリーカードを持って出かけ、謎解きをする感覚で散策させ、街への興味を喚起させたい。敢えて「休館」の店が多い日に散策させることで「また来たいな。いったいどうなっているのかな。」という気持ちにさせたい。この散策で、子どもたちには土地勘がつき、次にたんけんするとき「もっと調べたい場所」を机上で空想するよりも目的意識を持って決めることができると思う。

ふかめる段階では散策をもとに一人一人もっと詳しく調べたい場所を決めてグループを作り、質問を決めてたんけんに出かける。きっと子どもたちは質問することで分かる喜びを持つが、また更なる疑問も浮かんでくると思われる。そこで「第2回たんけんに行って

みよう。」と持ちかけ期待感が膨らむような支援をしていきたい。たんけんでは何より、地域や地域に住む人々との関わりを大切にしながら学習を進めていきたい。そのために、インタビューの仕方はしっかりシミュレーションをして堂々とインタビューできるよう支援しておきたい。そして分かったことを友達に教えてあげるために発表会をする。また、可能であれば、発表会の日をあらかじめ案内状の形で岩谷堂の地域の方に知らせておき、地域へ自分たちから発信していく活動も取り入れたい。生活科で近年取り組んでいるペア学習の一環として1年生も招待したい。発表会はたんけんしたグループごとに行う。発表資料の作り方・発表の方法について子どもたちのアイデアを引き出し、自分の発表会を成功させたいという意識が持てるよう支援していきたい。これらの活動の中では、個人差が大きく表れることが予想される。そこで、得意な子には知っていることをグループ内に、時にはクラス全体に広げながら活動できるような支援を、そうではない子には素朴な疑問や気づきを活動の中で生かしていけるような支援をしていきたい。

ひろげる段階では、学習を通して仲良くなった町の人たちを再び訪れ、地域への愛着を確かなものへと深めさせたい。

3単元の目標

(1) 観点別目標

関心・意欲・態度	思考・判断	気づき
・地域の様々な場所を、大切に利用しようとしている。	・地域の様々な場所の利用の仕方について考えたり、工夫したりして安全に気をつけて利用することができる。	・地域のさまざまな場所はみんなの集まる場所であるいろいろなお店があり、それぞれ工夫しながら生活している人々がいることに気づくことができる。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	気づき
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な場所に関心を持って利用しようとしている。 ・地域の様々な場所やそこで出会う人々に親しみをもち関わろうとしている。 ・みんなのことを考えて利用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な場所を利用したことや利用して楽しかったことなどを表現することができる。 ・みんなで楽しく使うための利用の仕方について考えたり工夫したりすることができる。 ・ルールやマナーを考えて利用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にはみんなで使うものやみんなのための場所があることが分かっている。 ・地域の様々な場所にはそれを支える人々がいることが分かっている。 ・地域の様々な場所を利用すると自分たちの生活が楽しく豊かになることに気づいている。

4単元の学習計画と評価計画（全19時間）

過程	主な学習活動	教師の支援	小単元の評価規準と方法
つ か む ③	<p>①</p> <div data-bbox="231 280 898 353" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1 岩谷堂の町ってどんなところだったけ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・よく遊ぶ場所や、買い物に行く場所について想起し、自分たちの町について思ったことを話し合う。 ・明日の散策の持ち物を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岩谷堂地区に限定し、焦点がずれないようにする。なるべくいろいろなことを出させ、たくさん褒めたい。 ・町の様子の拡大写真を見せながら、まだまだ知らないこともあることを認識させる。 ・ラリーカードをちらつかせ、なぞを解くために出かけたいという気持ちを高める。 	<p>《関》地域の場所・店について進んで想起し具体例を出している。 【発言・つぶやき】</p>
② ③	<p>② ③</p> <div data-bbox="231 734 898 808" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">2 どきどきわくわく町はぼくらのワンダーランド</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学年全体で、町を散策し、ラリーカードを解きながら、町との出会いから生まれる疑問・気づきをメモする。 ・また行ってみたい場所を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか、なぞ解きに取り組めない子には、看板に目を向けさせるなど視点を与える。 ・教室に戻ってから、疑問を持っている子を紹介し、広める。 	<p>《気》散策で、また行ってみたい場所を見つけることができる。 【ラリーカード・カード】</p>
ふ か め る ④ ⑤ ⑥	<p>④ ⑤ ⑥</p> <div data-bbox="231 1077 882 1128" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">3 もっとしりたいね</div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決めをする。（3～4人程度） ・たんけんする場所ごとに見てくることや聞いてくることについて話し合う。 ・質問を決め、原稿を書く。 ・インタビューの練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような疑問を持っている子同士でグループを作る。散策のときの様子や、拡大写真、前回のカードを参考にさせながら、質問を考えさせる。 ・インタビューについては、話す内容を話し合わせるが、あらかじめ教師側も基本形を用意しておく。家庭での音読同様、インタビューの練習をさせ、自信を付けさせておく。 ・回る順序についても決めさせる。 	<p>《思》自分の興味をもとに行って見たい場所を考え決めることができている。 【発言・カード】</p> <p>《関》探検の計画や準備を積極的に進めようとする。 【発言・カード】</p>
⑦ ⑧ ⑨	<p>⑦ ⑧ ⑨</p> <div data-bbox="231 1563 898 1615" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">4 それ行け！ちびっこたんけんたいパート1</div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力してたんけんしその場所について、そこで働く人の仕事の様子で気づいたことをカードに記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知りたいこと・聞きたいことはあらかじめ用意しておく。 ・たんけんの際、他に行ってみたくなかった場所があれば認める。しかしルールやマナーについては考えさせたい。 ・いきいきサポートなどの教師にもついていたが、児童の安全を確保する。 ・良かったグループを紹介し広める。 	<p>《関》めあてを持ち、町を観察し、話を聞こうとしている。 【行動・つぶやき】</p> <p>《関》たんけんをして、その場所や働く人々の様子に興味を持って関わろうとしている。 【行動・カード】</p> <p>《思》質問して分かったことをカードに記録することができる。 【カード】</p>

<p>⑩ ⑪ ⑫</p>	<p>5 それ行け！ちびっこたんけんたいパート2</p>	<p>・1回目より、さらに詳しく調べたり、更なる興味に向かって調べたりする。</p> <p>・この週の放課後は、自主研修としてたんけんに出かけても良いこととする。ただし保護者の了解を得る。</p>	<p>《思》1回目のたんけんを受け、さらに詳しい質問を考えることができる。</p> <p>【発言・カード】</p> <p>《気》1回目と2回目のたんけんの違い（質的な高まり）を持つことが出来ている。</p> <p>【発言・カード】</p>
<p>⑬ 本時 ⑭ ⑮ ⑯</p>	<p>6 たんけんしたことを、みんなに知らせよう。はっぴようかいのじゅんぴだ。</p>	<p>・分かったことや感じたことをどのような方法で発表したいか話し合う。</p> <p>・方法が決まったら、発表会の練習をする。</p> <p>・たんけんのときお世話になった人や1年生に、発表会の招待状を書く。（配布は、近隣の児童が下校途中に行くこととする）</p> <p>・あらかじめ、必要性のある道具を準備しておく。</p> <p>・一人一人の気づきを認める雰囲気作りを心がける。</p> <p>・地域の人や1年生に発信するという相手意識を持つことで発表会準備への意欲を喚起する。</p> <p>・なかなか考えがまとまらないグループは、工夫しているグループを紹介したり、教師が一緒になって発表資料をつくる。</p>	<p>《思》たんけんしたことについて何を伝えたいか決めることが出来ている。</p> <p>【発言・カード】</p> <p>《思》より良い発表方法を考えることが出来ている。</p> <p>【発言・カード】</p> <p>《思》たんけんの成果を友達に分かりやすく発表することが出来る。</p> <p>【発言・発表資料および作品】</p> <p>《関》協力し、発表の準備を進めることができています。</p> <p>【発言・カード】</p> <p>《思》自分たちで工夫して活動することが出来ている。</p> <p>【行動・発表資料および作品】</p>
<p>⑰ ⑱</p>	<p>7 ようこそ、町はかせの部屋へ</p>	<p>・グループごとに分かったことや気づいたことを発表する。</p> <p>・発表する側には、相手意識を持たせ分かりやすく発表させる。</p> <p>・聞く側は、マナーを守り静かに聞き、自分がたんけんに行かなかった場所についても、気づきがあるようにさせる。</p> <p>・地域の方がいらっしゃった場合、あいさつができるように指導しておく。</p>	<p>《思》より良い発表をしようと相手意識を持って発表することが出来ている。</p> <p>【発表態度】</p> <p>《気》友達の発表を聞いて分かったことや新たな疑問を持ったり、町の中に入った場所があることに気づく。</p> <p>【発言・カード】</p>
<p>ひろげる ⑲</p>	<p>8 なかよくなりたいね</p>	<p>・今までの活動を振り返りお世話になった人たちと、触れ合う。</p> <p>・本当の意味での地域とのふれあいにしたいので、形式的なものにならないようにする。折り紙を折っていくなど、児童のアイデアがあれば取り入れたい。</p>	<p>《関》地域に親しみを持つことが出来る。</p> <p>【行動・態度】</p> <p>《気》地域の人に自分たちは愛されていることに気づくことが出来る。</p> <p>【行動・態度】</p>

5本時の指導

(1) 本時の目標

- ・たんけんして分かったことや感じたことをどんな方法で伝えるか決めることができる。《思考・表現》
- ・発表相手を意識し、楽しみながら発表の準備をすることができる。《関心・意欲・態度》

(2) 本時の指導の工夫

つかむ段階ではたんけんて分かったことをみんなの前で紹介する時間をとり、自分たちのたんけんを想起させ、本時の活動がスムーズに行くようにする。

ふかめる段階では誰に発表会を聞いてほしいか子どもたちに考えさせ相手意識を持たせ、この小単元を通し意欲を持続できるようにさせたい。相手としては、たんけんてお世話になった人や、ペア学習の1年生、家族が考えられる。相

かんそうカード

月 日

2年 くみ 名まえ

あてはまることに○をつけましょう。

友だちとたのしく、おべんきょうできましたか。	たのし かった	まあま あ	もうす こし
どんなはっぴょうにするか、きまりましたか。	できた	とちゆ うまで	できな かった
話し合いではじぶんの考えを出すことができ ましたか。	いっぱい できた	すこし できた	教えても らった
じぶんでがんばったことや、友だちのよかったところを 書いてみましょう。			

なかよくなりたいね6

かんそうカード

月 日

2年 くみ 名まえ

あてはまることに○をつけましょう。

友だちとたのしく、町たんけんパート2にいったきま したか。	たのし かった	まあま あ	もうす こし
あいさつや、おれい、インタビューがしっかりできま したか。	できた	とちゆ うまで	できな かった
町たんけんパート1より、くわしく書けまし たか。	いっぱい できた	すこし できた	教えても らった
じぶんでがんばったことや、友だちのよかったところを 書いてみましょう。			

手に合った発表の内容・方法の工夫が思いつくグループがあれば賞賛し成就感を与えたい。

ふりかえる段階では、今日の進み具合等をグループごとに発表させ、次時の見通しを持たせる。また自己評価カードを使い今日の活動を振り返らせる。これにより、評価計画の評価材料としたい。

(3) 本時の学習活動（展開および本時の評価）

段階	学習内容・学習活動	◇支援 ・ 《 》評価
つかむ 7分	<p>1 課題をつかむ</p> <div data-bbox="172 465 871 539" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> たんけんしたことをみんなに知らせよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことをみんなの前で紹介する。 	<p>◇紹介することで自分たちのたんけんを想起させ、本時の活動がスムーズに行くようにする。</p>
ふかめる 3分	<p>2 グループごとに発表内容を決め、発表資料づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に発表会を聞いてほしいか子どもたちに考えさせる。 ・発表にはどんな方法があるか、話し合う。 <div data-bbox="172 842 727 972" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 考えられる例 かべ新聞・画用紙・紙芝居・クイズ形式 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた中でどの内容を伝えたいか、グループごとに話し合う。 ・内容が決まったところから順次、発表資料をつくる。 	<p>◇発表相手を意識することで、児童の意欲を喚起する。</p> <p>◇あらかじめ、必要性のある道具を準備しておき児童の思考の助けとする。</p> <p>◇一人一人の気づきが認められる雰囲気作りを心がける。</p> <p>◇自分たちで進めないでいるときは、たんけんの最中に子どもたちが生き生きと活動したりチームで話し合ったときに考えたりつぶやいたりした事実を話してあげ、伝えたい内容を意識させ励ます。</p> <p>◇相手意識のあるアイデアを持っているグループがあるときは、いったんグループごとの活動をとめ、全体に紹介し広めたい。</p> <p>《関》ルールやマナーを守り、協力して発表の準備を進めることができている。</p> <p>【観察・発言】</p> <p>《思》グループで話し合いながら、たんけんしたことについて何を伝えたいか決めることができている。</p> <p>【発言・カード】</p>
ふりかえる 8分	<p>3 自己評価をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と感想を自己評価カードに書く。 <p>4 感想発表をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がかんばったことや、ともだちの良かったところを発表する。 <p>5 次時の活動について知る</p>	<p>《関》自分がかんばったところや、ともだちの良かったところを見つけることができている。【発言・自己評価カード】</p> <p>◇それぞれの発言により自分の活動を振り返らせ、全体の意識を高めるようにする。</p>